

堀川・新堀川雑感

23期 小林 秀明

名古屋の母なる“川”、堀川の水質調査を始めて10年程になる。

名古屋市高年大学鯉城学園環境学科を卒業して1年・2年の2年間は松重閘門の橋だったが3年目からは大瀬子橋に変更になって結構遠かったが楽しく実施できたと思う。

大瀬子橋はもう名古屋港と言ってもよい位の位置なのでいつも測定値は毎回大差ないものだったと記憶している。

その後、新堀川も実施することになり旧東海道に架かる熱田橋に替わった。その内、学園の在校生が実施している橋と競合しないようにと、23期は新堀川の大井橋になって現在に至っている。

新堀川は堀川と同じように水源を持たず、堀留水処理センターの処理水を水源としていて、途中両岸の雨水、雑排水も流入している都市型排水路である。

大井橋での採水の色はほとんどが“褐色”で、頭に“緑”か“黒”が付く色が多いが5月14日のようなほぼ“黄色”になったことは記憶にない。

また色見本帳の“黄緑”④、“黄”⑦と“黄”がつくような事例も記録にない。

今回のような“黄色”になった原因は何だろうか。